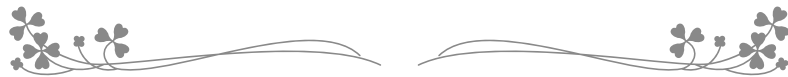




2017年度 事業報告

社会福祉法人 いのちの電話



はじめに

昨年も皆様のあたたかいご支援と励ましをいただき、いのちの電話の活動を続けていくことが出来ましたことに厚く御礼申し上げます。

昨年は、座間で大変痛ましい事件が起こり、若い人たちの自殺をめぐる様々な問題が、大きくクローズアップされました。被害に遭われた方々の、心の叫びを拾い上げられなかった私たちには、大変重い事件でした。

その後、マスコミ各社からの取材も相次ぎましたが、12年前からメール相談を続けている東京のいのちの電話でも、SNSを使ったラインなどによる相談への対応や、これからのメールを使って行う相談活動にも沢山の課題があることを思い知らされた年でした。

先日、「AIでいのちの電話は代わり得るのか？」というテーマでインタビューを受けました。ある意味、とても現代的な視点だと感じました。確かに最近のAIのすさまじい進化は、相談に対して、私たち以上に説得力のある言葉を返すことが出来るかもしれません。しかし、生きている人間同士による関わりは、悩みや迷いなどを抱えて相談する者と相談を受ける者が、一緒に悩み、一緒に泣き、時間を共有するいのちの存在そのもので、それぞれの「いのち」を生きているからこそ向かい合えると実感しています。

超高齢化社会が目前に迫っています。本当にたくさんの方が孤独で苦しんでいる、そのことを私たちは電話を通して知っています。電話が鳴りやむことはありません。わたしたちの働きは、本当に小さな、地味なものです。しかし、わたしたちを必要として下さる方々がいる限り、いのちの電話の活動を守り続けていきたいと願っています。

これからも、いのちの電話を見守り、ご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

社会福祉法人いのちの電話
理事長 穴戸 信次郎

目次

はじめに	1
社会福祉法人いのちの電話の基本活動方針	2
2017(平成29)年度 社会福祉法人いのちの電話概況	2
2017(平成29)年度 活動内容	3
2017(平成29)年度 相談の実態とその傾向	4
電話相談	4
土曜医療相談	5
フリーダイヤル	5
インターネット相談	6
2017(平成29)年度 決算報告	7
2018(平成30)年度 予算書	7
2018(平成30)年度 事業計画・役員	8
後援会	9

社会福祉法人いのちの電話の基本活動方針

社会福祉法人いのちの電話は、苦悩の多いこの時代にいきるものが互いによき隣人となって、一人ひとりのいのちを大切にしようという思いから生まれました。

「いのちの電話」は、思いを同じくする多くのボランティア相談員によって「電話」「インターネット」を通じた対話を中心に次に掲げる事項を基本として活動します。

- 一、「いのちの電話」は、すべての人、とくに危機に直面している人、自殺を考えている人、孤独のなかにあつて、助け・慰め・励ましを求めている一人ひとりに向けて開かれています。
- 一、「いのちの電話」は、相談者に対してよき隣人として開かれた心をもち、親身になって対応することを基本とします。
- 一、「いのちの電話」は、相談の秘密を守ります。
- 一、「いのちの電話」は、相談者と相談員の双方の匿名性を尊重します。
- 一、「いのちの電話」は、相談者の思想、信条、信仰等を尊重します。
- 一、「いのちの電話」による電話相談は、無料です。
- 一、「いのちの電話」は、所定の研修を受けた人たちによって一日24時間体制で相談を受付けます。
- 一、「いのちの電話」は、電話相談以外の相談事業についても上記に述べた諸方針で行います。
- 一、「いのちの電話」は、主として寄付によって自主的に運営されています。

2017(平成29)年度 社会福祉法人いのちの電話概況

2018年3月現在

設 立	1971(昭和46)年10月1日開局	活 動 内 容	電話相談 インターネット相談
法 人 認 可	1973(昭和48)年12月		医療相談 フリーダイヤル(毎月10日)
組 織	理事10名・監事2名・評議員13名	相 談 員 養 成	年1回公募
相 談 員 実 働 数	284名	相 談 員 研 修	継続研修、講座随時
認 定 者 累 計	1,820名	運 営 費	年間経費:約3,000万円
受 信 件 数	24,135件(2017年1月~12月)	機 関 紙	広報誌「いのちの電話—東京」
	男 9,852件 女 14,283件	関 連 団 体	一般社団法人 日本いのちの電話連盟
総 受 信 件 数	開局以来累計:1,310,177件		日本自殺予防学会
相 談 時 間	24時間(年中無休)		

2017(平成29)年度 活動内容

I 実施した研修

- 養成研修(18ヶ月)
 - 50期生(2年目)第Ⅲ期、第Ⅳ期(インターン期) ●51期生(1年目)第Ⅰ期、第Ⅱ期
- 継続研修(グループ研修2年間単位の2年目)
21のグループが、情報交換と支え合いを目的に、会話記録等をもとにしたグループスーパービジョンを行う。
- 全体研修 於研修室300A
 - 「精神疾患への理解を深める」'17年 7/1(土) 講師:菊池 俊暁氏(国立研究開発法人 日本医療研究開発機構) 参加者:34名
 - 「今、いのちの電話が果たすべき機能と役割」'17年 7/30(日)
講師:林 義子(カトリック援助修道会、いのちの電話理事) 逸見 敏郎氏(立教大学教授、いのちの電話研修委員) 参加者:31名
 - 「性的話」'17年 9/27(水) 講師:矢永 由里子氏(慶応義塾大学医学部感染制御センター講師、いのちの電話研修委員) 参加者:33名
 - 「生活保護の周辺と支援」'17年12/7(木) 講師:松尾 隆義氏(いのちの電話研修委員会副委員長) 参加者:31名
 - 「最近の電話相談の実際について ～受信カードを読む会からの報告～」'18年 2/1(木) 講師:リーダー会(受信カードを読む会) 参加者:29名
- フリーダイヤル研修
 - 「東京都女性相談センターの機能と対応」'17年 6/2(金) 講師:和田 芳子氏(東京都女性相談センター所長) 参加者:24名
 - 「発達障がいへの理解を深める」'17年 10/27(金) 講師:岩田 淳子氏(成蹊大学教授・臨床心理士) 参加者:35名
- 45期～49期フォローアップ研修 「事例を使った研修&先輩の電話をさく体験から」
 - 講師:樋田 大二郎氏(青山学院大学教授・研修委員) 第1回 '17年 11/4(土) 参加者:16名 第2回 '17年 11/25(土) 参加者:12名
- スキルアップをはかるための個人スーパービジョン
 - 講師:飯島 睦子氏(元研修委員長) 岩田 淳子氏(成蹊大学教授・臨床心理士) 逸見 敏郎氏(立教大学教授・臨床心理士) 矢永 由里子氏(慶応義塾大学医学部感染制御センター講師・臨床心理士) 参加者:47名
- 特別研修(10期)2年次課程 インターンコース('16年4月～'18年3月) 参加者:8名
- インターネット相談研修
 - ネット相談員継続研修
第1回講師:福山 清蔵氏(立教大学名誉教授)「ネット相談におけるシェアリングの意義とシェアリング実習」'18年 2/12(月、祝) 参加者:15名
- Tグループファシリテーター養成研修(ファシリテータートレーニング)
 - 講師:樋田 大二郎氏(青山学院大学教授・研修委員) 杉山 郁子(名古屋市立大学・南山大学・看護専門学校等非常勤講師)
'17年 8/18、8/19、8/20(金、土、日) 参加者:12名
- 継続研修のためのリーダー勉強会 '17年 9/2(土)、10/7(土)、12/2(土)

II 活動

- 役員会
 - 理事会 第280回、第281回、第1回～第7回(9回) '17年 4/27、5/31、6/9、7/21、9/25、10/16、11/10、'18年 1/26、3/5
 - 評議員会 第1回～第3回(3回) '17年 6/9、11/27、'18年 3/28
- 研修委員会
 - 委員会の開催(7回)'17年 5/10、6/30、8/29、11/8、'18年 1/10、2/5、3/12
 - リーダー会 定例研修会、宿泊研修、継続グループ運営、相談員のケア、スーパービジョンの研修と実施
'17年 5/29、7/29、9/29、11/29、'18年 1/28、1/29、3/29
- 運営協議会
 - 委員会の開催 第112回～第116回(5回) '17年 5/13、7/8、9/9、11/11、'18年 1/13
- ボランティア委員会
 - 各継続グループから委員を選出し、隔月に委員会を開催(5回) '17年 5/13、7/8、9/9、11/11、'18年 1/13
 - 相互交流、情報・意見の交換、連絡、行事への参加協力、研修への提案、組織運営への理解と提案等
 - 全体会(毎年3月)の企画・実施 ●内部誌『ボランティア』の発行なし
- バザー委員会
 - 後援会主催バザー('17年度は10/21土) 実施のため、各継続グループから委員を選出 ●後援会に協力して、バザーを企画・実施
- 広報委員会
 - 年2回、機関紙『いのちの電話 東京』を発行('17年度は157号・158号)
- 財務委員会(3回)
 - 財務(予算・決算・その他) ●委員会の開催 '17年 4/25、10/27、'18年 2/27
- インターネット相談委員会
 - 委員会の開催(4回) '17年 6/3、9/2、12/9、'18年 3/3 ●コーディネーターの会 '17年 4/12、7/5、10/11、'18年 1/10

III その他

- 相談員(52期生)の募集
 - 応募者 32名 ●52期生 24名
- 感謝式・全体会('18年 3/10土) 於:富士見町教会
 - 永年勤続感謝:20年(32期) 11名、10年(42期) 8名 その他 29名 ●認定者(50期) 9名 ●全体会:出席者:約70名
- 厚生労働省事業への参加協力('17年1月～12月)
 - 補助事業「自殺予防フリーダイヤル」に参加 期間:毎月10日(朝8:00～翌朝8:00)専用電話1本 参加者延人数:135名 受信件数:854件
 - 自殺防止対策事業オープンセミナー 生きているってすばらしい～人生の切り開き方、考え方～'17年 9/1(金)
講師:鎌田 實氏(医師・作家) 場所:YMCA 参加者:132名
- その他 苦情対応 事務局で対応 相談事業に対する苦情32件 ('17年1～12月)

2017(平成29)年 相談の実態とその傾向

電話相談の統計から

2017年(1月～12月受信)の電話相談は、24,135件(男性9,852件、女性14,283件)であり、男女比は女性からの相談が多いこれまでの傾向に変化は見られなかった。自殺傾向は前年度よりやや減少した。また相談を利用した年代も40代が最も多く、次に50代、30代がつづき状況は変わらなかった。受信件数の減少については、昨年同様、相談員の実働数の減少と深刻な相談が増えた事が原因と思われる。孤独で苦しい状況を訴える相談も多く寄せられた。

*平均通話時間:29分(男性23分、女性33分)

表1 電話相談 年代別件数

	男性	女性	2017年 合計	2016年 合計
10代	227	88	315	353
20代	798	766	1,564	2,170
30代	2,050	2,131	4,181	4,677
40代	2,315	3,517	5,832	6,769
50代	2,047	3,657	5,704	5,712
60代	1,283	2,817	4,100	3,213
70代	281	575	856	709
不明	851	732	1,583	1,840
合計	9,852	14,283	24,135	25,443

図1

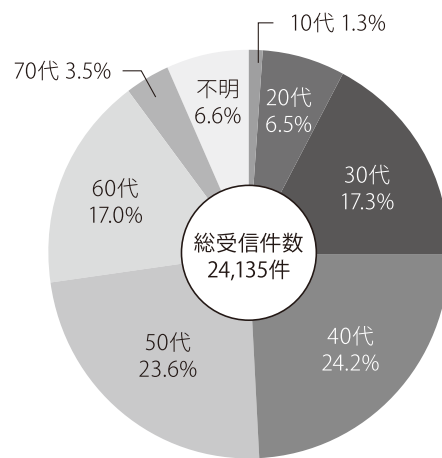
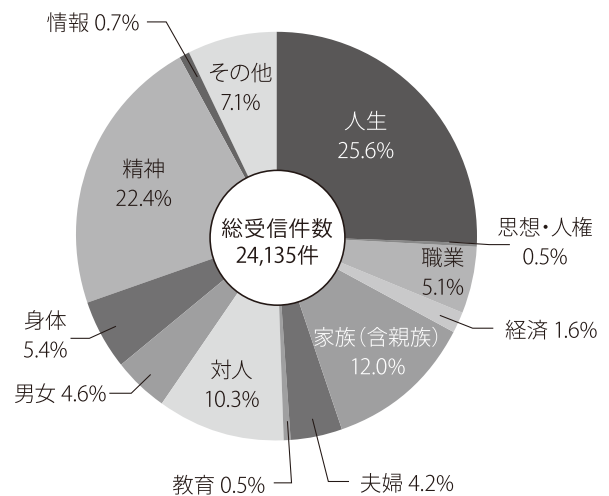


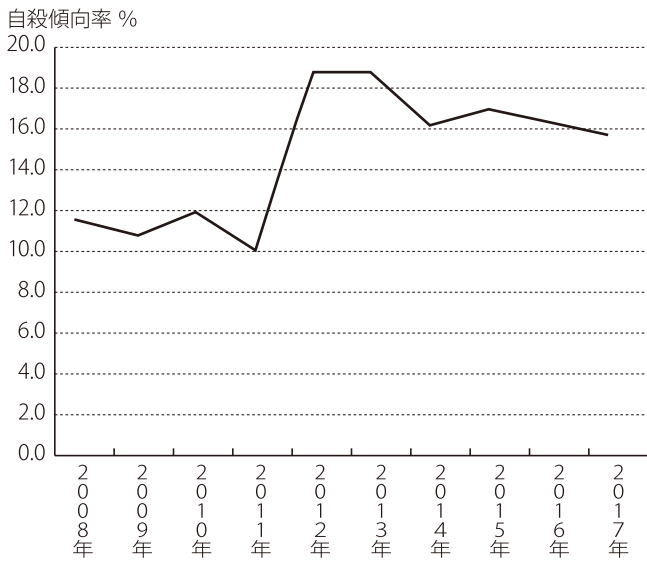
表2 電話相談 問題別件数

	男性	女性	2017年 合計	2016年 合計
人生	2,600	3,568	6,168	6,007
思想・人権	69	41	110	123
職業	692	550	1,242	1,427
経済	166	227	393	370
家族(含親族)	629	2,277	2,906	3,000
夫婦	217	808	1,025	1,097
教育	42	71	113	108
対人	728	1,764	2,492	2,655
男女	453	659	1,112	1,628
身体	460	855	1,315	1,432
精神	2,420	2,997	5,417	5,531
情報	81	80	161	178
その他	1,295	386	1,681	1,887
合計	9,852	14,283	24,135	25,443

図2

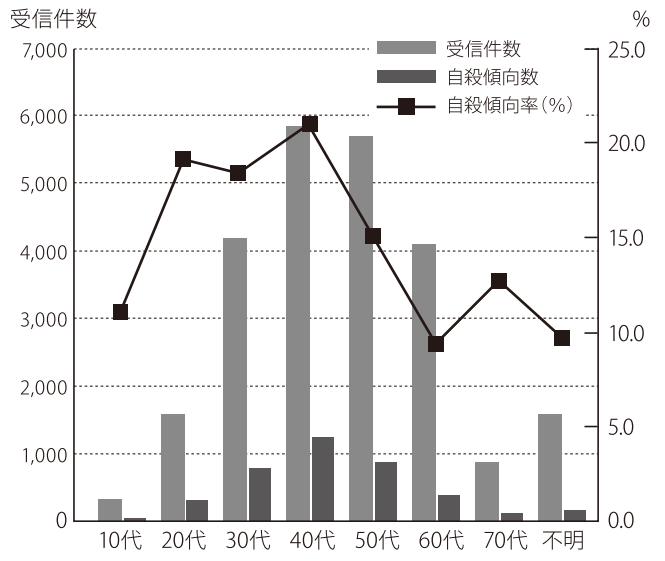


【図3】電話相談 10年間の自殺傾向率



	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
受信件数	28,881	29,551	28,987	28,377	27,517	28,276	28,164	27,161	25,443	24,135
自殺傾向率 (%)	11.6	10.9	12.1	10.2	18.8	18.8	16.1	16.9	16.3	15.9

【図4】電話相談 年代別受信件数と自殺傾向率



	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	不明
受信件数	315	1,564	4,181	5,832	5,704	4,100	856	1,583
自殺傾向数	35	298	769	1,222	864	385	109	153
自殺傾向率 (%)	11.1	19.1	18.4	21.0	15.1	9.4	12.7	9.7

土曜医療相談

カトリック医師会、キリスト者医科連盟等の医師により毎週土曜日14時～17時に行われている。昨年度相談件数は311件(男性135名、女性176名)(男性43%、女性57%)。月毎の平均通話数は約26件である。医療情報がネットなどで容易に得られることが影響しているのか、この3年は減少傾向にある。科目別では、精神科に関連した相談が半数近くを占め、全体に治療中からの相談が多い。反復してかけてくる方が多く、疾患・医療そのものの他に、医師との関係性や病を持っているための生きにくさなど、複合的な相談がほとんどである。希死念慮のある方は少ないが、医師が直接電話で対応することで、疑問や不安を解消したり治療意欲を持ち直すなどの支援につながっている。

【科目別】 2017年1月～12月

	男性	女性	合計
精神科(心療内科)	85	84	169
内科	38	78	116
外科(整形外科)	11	7	18
婦人科・産婦人科	0	4	4
泌尿器科	3	0	3
皮膚科	2	3	5
耳鼻科	0	4	4
歯科	3	4	7
眼科	2	0	2
小児科	0	0	0
性について	3	1	4
エイズ	0	4	4
健康相談	0	4	4
美容整形	0	0	0
その他	4	8	12
合計	151	197	348

*複数回答あり

【月別相談件数】 2017年1月～12月

	男性	女性	合計
1月	15	11	26
2月	11	13	24
3月	13	14	27
4月	13	15	28
5月	10	24	34
6月	13	17	30
7月	14	13	27
8月	8	16	24
9月	7	15	22
10月	12	13	25
11月	7	19	26
12月	12	6	18
合計	135	176	311
2016年度			364
2015年度			394

フリーダイヤル

毎月10日、全国のセンターをオンラインでつなぎ、フリーダイヤルで電話を受けている。通常電話より自殺傾向が高いこと、男性からの相談が多いことが特徴である。

	男性	女性	2017年合計
相談件数	489	365	854
自殺志向数	108	96	204
自殺志向率 (%)	22.1%	26.3%	23.9%
平均通話時間(分)	15	20	17

2017年1月～12月

インターネット相談

日本いのちの電話連盟が運営管理していたインターネット相談は、2016年度より2017年9月まで、盛岡、仙台、新潟、埼玉、東京、愛知、奈良、愛媛、福岡センターとの共同により実施した。2017年11月以降は、埼玉いのちの電話の運営管理により、仙台、埼玉、東京センターの共同で東京システムとして実施した。

相談受信件数は、全体で1,745件(男性526件、女性1,219件)自殺傾向率は45.8%。10代～30代の若年層からの相談が7割以上であり、対応に苦慮する深刻な相談が多く寄せられた。うち東京センターが対応した相談は315件であった。

また、2017年10月より本稼働された日本いのちの電話連盟によるインターネット相談事業(新システム)は、盛岡、仙台、新潟、栃木、埼玉、東京、川崎、浜松、愛知、奈良、愛媛、福岡センターにより実施した。新システムの試行を含む相談受信件数は全体で1,084件(男性320件、女性753件、その他11件)自殺傾向率は45.4%と高い傾向であった。うち東京センターが対応した相談は、20件であった。

図5 インターネット相談年代別

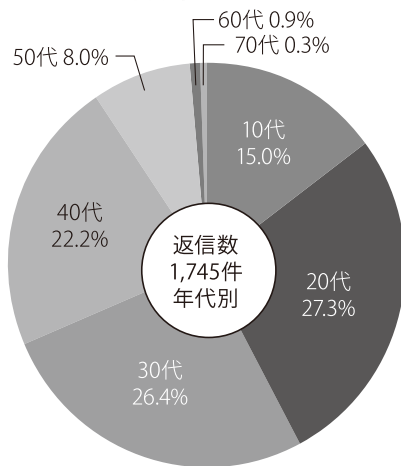
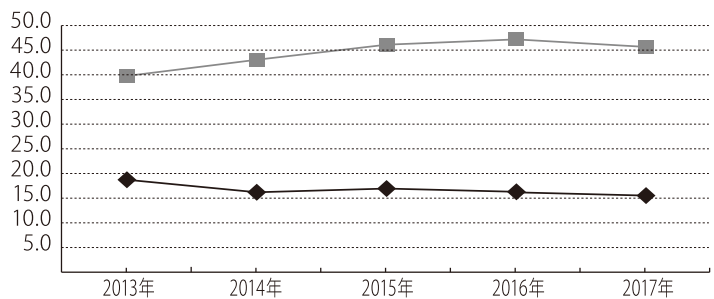


図7 過去5年間の電話相談とネット相談の自殺傾向比較



	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
電話相談	18.8	16.1	16.9	16.3	15.9
ネット相談	39.8	43.0	46.1	47.4	45.8

2017年1月～12月

図6 インターネット相談問題別

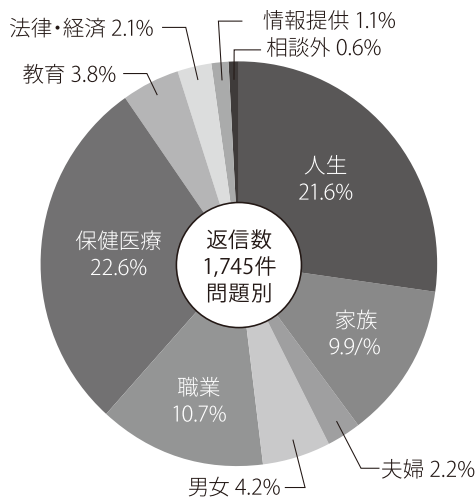
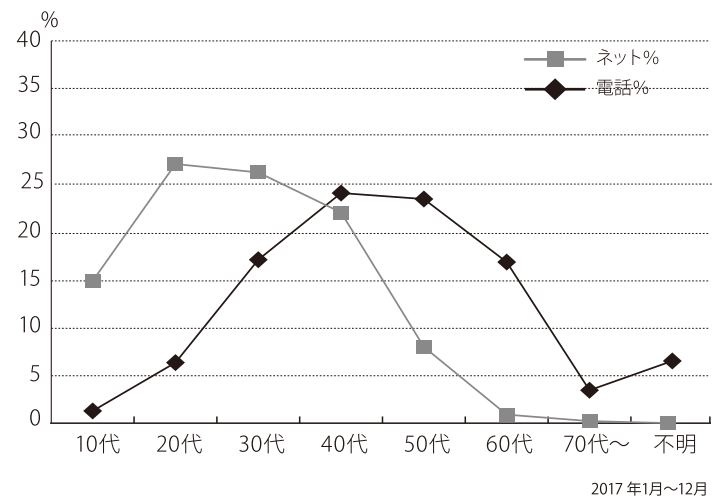


図8 電話相談とネット相談利用者の世代別比較



2017年1月～12月

2017(平成29年度) 決算報告

2017年度 経常会計収支決算書 (自2017年4月 至2018年3月)

単位:円

収入の部	
科目	金額
賛助(団体)	12,325,951
賛助(個人)	9,315,757
東京都公的補助金	1,825,000
共同募金・年賀寄付金分配金	600,000
後援会チャリティ寄付	1,000,000
研修受講料	1,293,000
利息・雑収入等	168,784
経常収入総合計	26,528,492

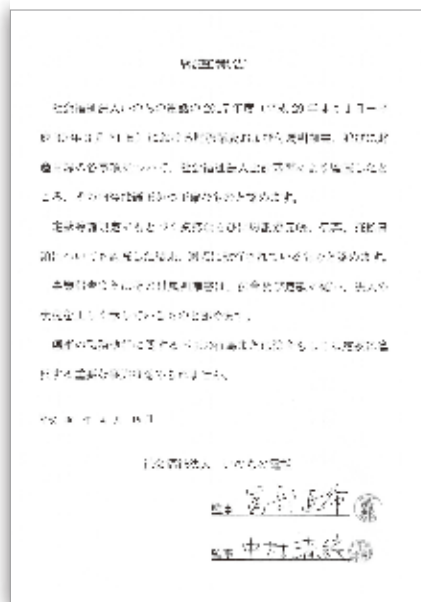
2017年度 貸借対照表 (2018年3月31日現在)

単位:円

借方		貸方	
科目	金額	科目	金額
現金預金	113,743,845	事業未払金	181,948
基本財産特定預金	100,000,000	預り金(公租公課・他)	82,575
建物構築物	1	基本金	100,000,000
電話権利	1,355,020	その他積立金	73,002,299
差入保証金	1,838,518	固定資産基金	21,150,695
		正味財産増減差額 (うち当期活動収支差額)	22,502,867 (16,999)
合計	216,937,384	合計	216,937,384

単位:円

支出の部	
科目	金額
施設管理費	5,995,723
相談員研修・ボランティア厚生費	2,847,134
連盟連帯費	2,519,000
通信費・交通費	1,798,681
広報印刷費・調査研究費	330,784
システム運用費	509,012
事務費・人件費等	10,322,619
什器備品費	388,540
協力資金積立金繰入	1,800,000
当期収支差額	16,999
経常支出総合計	26,528,492



2018(平成30)年度 予算書

2018年度経常会計収支予算書 (自2018年4月 至2019年3月)

収入の部		単位:円
科目	金額	
賛助(団体)	10,970,000	
賛助(個人)	7,100,000	
東京都公的補助金	1,825,000	
後援会チャリティ寄付	2,000,000	
共同募金分配金等	300,000	
研修受講料等	1,262,500	
利息・雑収入等	130,000	
経常収入総合計	23,587,500	

支出の部		単位:円
科目	金額	
施設管理費	5,998,000	
相談員研修・ボランティア厚生費	2,964,000	
連盟連帯費	1,704,000	
通信・交通費	1,820,000	
広報印刷費・調査研究費	340,000	
システム運用費・構造改革費	721,400	
人件費等	8,341,000	
一般管理費等	1,699,100	
経常支出総合計	23,587,500	

2018(平成30)年度 事業計画・役員

I 基本方針

1. 相談事業の安定的な実施
2. 相談体制の充実と強化
3. 組織の整備と運営の適正化
4. 活動への理解と支援拡大に向けての取組
5. 社会・外部組織との積極的な関係作り

II 具体的活動計画

1. 相談事業の安定的な実施
 - 1) 電話相談 ●電話相談の年中無休24時間体制を維持継続する。
 - 2) インターネット相談 ●インターネットによるメール相談を維持継続する。
 - 3) 土曜医療相談 ●協力医師による毎週土曜日の電話医療相談を継続する。担当者の相談検討会を実施する。
2. 相談体制の充実と強化
 - 1) 相談活動の現状の問題点を洗い出し、組織全体での問題意識を共有する。
 - 2) 組織の役割と活動内容の再確認
変化しつつある社会の中での相談活動の役割を再認識し、いのちの電話の理念に基づいた、相談活動の継続・拡充に向けて議論する。
 - 3) 電話相談員の募集・養成体制の見直し、養成研修の定着を図る。
募集要項を通年掲示することで、周知機会増大と応募意欲の促進を図り、相談員の拡充を目指す。
 - 4) 相談員の意欲の維持・強化を図るため、相談員同士の交流を深める。
 - 5) 電話相談員のケア体制拡充を検討する。
 - 6) 電話相談員の継続研修の見直しを検討する。
 - 7) 電話相談員の誓約事項の遵守と、活動内容の活性化を図るための施策を検討する。
3. 組織運営の整備と運営の適正化
 - 1) 構造改革の実施 ①組織の直面する諸課題に対処し、社会福祉法人としての使命を十全に果たすため、先見力・発信力を重視した組織運営を志向しつつ、具体的施策を立案・実行する。 ②事務局体制の改革 ③社会福祉充実計画のフォローアップ ④創立50周年に向けた記念事業等の検討
 - 2) 改正社会福祉法の趣旨に沿って、内部統制の充実を図り、組織の最適化や定款細則等諸規定の整備を推進する。
 - 3) 相談員が組織運営に主体的に関われるような開かれた体制作りを目指す。
4. 活動への理解と支援拡大に向けての取組
 - 1) 健全な財政を維持するための募金
 - 2) 後援会主催のチャリティ行事等の実施への協力
 - 3) 広く理解、支援を得るために、講演会や説明会などの積極的な広報活動に取り組む
・ 広報誌(事業報告、寄付感謝報告を含む)の年2回発行
・ いのちの電話活動の周知を目的に、講座プログラムを作成し、学校や企業に向けて講座を開催する。
5. 社会・外部組織との積極的な関係作り
 - 1) 各種の相談ネットワークとの関係づくり、紹介先の再検討
自殺予防支援ネットワーク(東京都主催)との連携協力
 - 2) 日本いのちの電話連盟及び、他のセンター等との連携、協力
 - ①2018年度厚生労働省補助事業自殺防止対策事業参加
●毎月10日 8:00～翌日8:00に実施されるフリーダイヤルへの参加 ●第43回日本自殺予防シンポジウムへの参加
 - ②第35回いのちの電話相談員全国研修会新潟大会への参加

役員等名簿

2018年6月1日

任期(理事・監事・顧問) 2017年6月9日～2019年定時評議員会終結時		任期(評議員) 2017年4月1日～2021年定時評議員会終結時	
理事 計10名		評議員 計13名	
植村 みどり	(社福)いのちの電話事務局長	石島 武一	(社福)聖ヨハネ会桜町病院名誉院長、 日本カトリック医師会名誉会長、医療相談
大瀧 京子	(社福)いのちの電話ボランティア	岡村 五十男	いのちの電話後援会会長
大西 連	(認定NPO法人)自立生活サポートセンター・ もやい 理事長	神田 佳和	(社福)いのちの電話ボランティア
倉本 英彦	精神科医	北川 逸英	日本ルーテル教団杉並聖真ルーテル教会牧師
高村 治子	アジア婦人友好会会長、(一社)母子健康手帳 普及協会顧問、いのちの電話後援会名誉会長	清水 和良	(社福)荒川区社会福祉協議会
佐藤 治隆	弁護士	高瀬 幸子	産婦人科医師、順天堂大学・東京女子大学非常勤 講師、医療相談
穴戸 信次郎	(社福)いのちの電話理事長・ボランティア、 日本キリスト教団麻布南部坂教会員	谷口 尋子	(社福)埼玉いのちの電話理事
末松 渉	末松TAコミュニティ研究所所長、臨床心理士、 (社福)いのちの電話研修委員長	樋田 大二郎	青山学院大学教育人間科学部教授
林 義子	(宗)カトリック煉獄援助修道会	藤盛 勇紀	日本基督教団富士見町教会牧師
壬生 浩介	(社福)いのちの電話ボランティア	望月 和子	(社福)いのちの電話ボランティア
		矢田部 千佳子	(社福)いのちの電話ボランティア
		矢永 由里子	慶應義塾大学医学部感染制御センター特任講師
		山崎 隆	(社福)いのちの電話ボランティア
監事 計2名			
富部 直希	税理士		
中村 清純	水町保険診療所医師		
顧問: 朝居 健(税理士)、福山 清蔵(立教大学名誉教授)		50音順敬称略	

後援会

いのちの電話後援会は、社会福祉法人いのちの電話の財政基盤を支え、支援の輪を広げるため、また相談員をはじめとする会員相互の親睦を図ることを目的として組織されています。

寄付金募集の協力、広報活動、財政支援事業（チャリティバザー、映画会、コンサート、落語会など）の実施、センター内の相談員の便宜を図るために関連図書、古本販売、また書き損じはがき、未使用切手の収集を行っています。

2017年度 チャリティ事業報告

- 10月21日（土）バザー（於：東京ルーテルセンター）
毎年、東京ルーテルセンターのご協力をいただき、1階と2階を主会場にバザーを行っています。開催は収益が大きな目的ですが、会員をはじめ近隣の方たちとの親睦も兼ねています。その販売品は、企業からの寄贈品および相談員からの寄付です。当日はあいにくの雨で来場者数が懸念されましたが、例年のように多くの方々が集まり、売り場や喫茶コーナーは大いに賑わいました。最終収益はほぼ例年と同様の額となりました。
- 2月3日（土）リコーダーとヴィオラ・ダ・ガンバ演奏会（於：富士見町教会）
小規模の会場でしたが、前日が雪にも関わらず150人ほどの方が来場されました。古楽器の温かく優しい音色が紡ぎ出すアンサンブルは心地よく、皆で楽しい時間を過ごすことが出来ました。演奏だけではなく、楽器の紹介や日本の民謡も含む多様な曲目なども好評でした。
寄付・献金という形で集めた収益は、多くの方々のご協力で予想を超える額となりました。また、相談員の友達や家族、演奏者の知人など色々な方たちにも「いのちの電話」の活動を知って頂く機会にもなりました。



2017年度 活動実績

- バザー収益： 約100万円
- リコーダーとヴィオラ・ダ・ガンバ演奏会収益： 約29万円
- その他物品の販売

2017年度 寄付実績

社会福祉法人いのちの電話へ200万円寄付

2018年度 チャリティ事業計画

- 8月9日（木）被爆ピアノコンサート（昼・夜2回公演）
会場：文京シビックホール
- 11月3日（土）バザー 10:30～13:30
場所：東京ルーテルセンター

所在地：社会福祉法人いのちの電話内

後援会役員

任期 2018年4月1日から2020年3月31日

2018年4月1日

理事等
計18名

高村 治子	植村 みどり	渡邊 富子	神田 佳和	（顧問）
岡村 五十男	岡内 泰子	上村 明子	野田 芳朗	中村 武照
田部 誠	徳川 信子	尾形 婦志子	野呂 雅彦	小澤 格
浅見 正博	三崎 由美子	各務 啓子		山田 忍

監事
計2名

新井 英明
正野 建樹

ご支援ください

いのちの電話は、相談員の無償の奉仕で支えられていますが、研修費、広報、事務費、借室料など年間約3,000万円の運営費が必要です。その運営費の大部分が皆様からの尊いご寄付に頼っています。

ご寄付は個人、法人ともに税制上に優遇措置があります。

皆様からのご支援をどうぞ宜しくお願いいたします。

寄付の
送金先

【郵便振替】 00140-3-162972 社会福祉法人 いのちの電話

三菱UFJ銀行 神保町支店 普通 1084827

社会福祉法人 いのちの電話



電話相談

▶ 03-3264-4343



インターネット
相談

▶ <https://www.inochinodenwa-net.jp/>



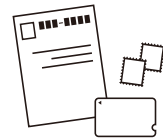
フリーダイヤル

▶ 0120-783-556

「自殺予防いのちの電話」毎月10日

●未使用ハガキ・未使用切手を送ってください

書き損じハガキや年賀状・暑中見舞いなど、使い道がなくなって家で眠っているハガキや未使用切手はありませんか。私たちの活動に大きな助けとなります。よろしくご協力お願い致します。



社会福祉法人 いのちの電話
2017年度事業報告

[発行日] 2018年6月
[発行者] 穴戸 信次郎

[事務局] 〒102-0071
飯田橋郵便局留

[TEL] 03-3263-5794 [FAX] 03-3264-4949
[HP] <http://www.indt.jp/>